

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	青木みのり【論文博士】 (人間発達科学専攻 平成9年9月単位修得退学)	要 旨
論文題目	心理療法を通じての問題のとらえ方の変化に関する質的研究： 解決志向アプローチと個人別態度構造分析を用いて	<p>本研究の目的は、心理療法の多様性を解明し、クライアントにとって有益な心理療法の開発に貢献するために、質的研究法を用いてクライアント個人の主観から心理療法の成果をとらえることである。</p> <p>解決したい悩みを持つ健常な成人9名を協力者とし、解決志向アプローチによる3回の試行面接の前後に、個性記述的な質的分析法であるPAC (Personal Attitude Construction) 分析による事前事後テストを行い、個人に固有の世界観における「問題への認識」と「問題への関わり」がどのように変化したかを探索的に検討した。その結果、協力者の固有の主観的世界観における「問題への認識」と「問題への関わり」を明らかにすることができた。クライアントが変化を実感できた事例と、そうではない事例について検討した。</p> <p>次に、より多くの事例における「問題への認識」と「問題への関わり」の変化をとらえるため、9名分のデータを、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて分析した。事前および事後 PAC 分析のプロトコルからそれぞれ、問題のイメージ、解決のイメージを得た。結果として、問題のイメージと解決のイメージの両方で、主体の動きと、価値を持ちうるものがみられた。但しそれらの関係は、問題および解決のイメージでは異なっていた。</p> <p>この臨床的示唆をうけて、「認識と関わりの主体」モデルを提示した。これにより、認識や関わりの主体への支援や、メタ・コミュニケーションにおける留意点を示すことができた。</p>
審査委員	(主査) 教授 坂元 章	
	教授 内藤 俊史	
	教授 大森 美香	
	教授 篁 倫子	
	准教授 伊藤 亜矢子	